

宮古市民生委員児童委員協議会

(平成 25 年 1 月 18 日掲載)

この度は、皆様から多大なる支援をいただき衷心よりお礼申し上げます。

さて、東日本大震災より 1 年 9 か月が過ぎ大分落ち着きを取り戻してきましたが、民児協事務局（単独）は被災した市役所内にあり、当時はライフラインが寸断され会議の場所もなく途方にくれる日々を過ごしました。

また、16 地区のうち 11 地区が被災し、委員の中には被災しながらも地域住民のため奔走し体調を崩す方や、仮設住宅等で世帯数が増加し活動の範囲が広がる委員が増え、疲労が蓄積されている状態が今も見受けられます（震災時：2 名死亡、2 名転出／震災後：6 人死亡、1 名辞任）。

このような中、委員同士の情報交換は特に重要であることから、岩手県共同募金会日韓共同募金東日本大震災救援プロジェクトの助成を受け、平成 24 年 12 月 7 日に「宮古市民生委員児童委員協議会地区会長・副会長等交流研修会」を開催しました。研修会では、「震災後からの各民児協の動きと課題について」をテーマに地区ごと報告いただき、48 名の参加者との情報交換を震災後初めて地元で開催することができ、大変有意義な研修となりました。

また、社会福祉協議会の生活支援相談員の方々が地区の定例会に毎月出席し、仮設住宅の状況等について情報交換を行い、連携を図っています。

さらに本年度は、県外からの視察を多数受け入れ、震災経験を話すことで情報の共有化を図り、防災への一助となるための対応に取り組んでいるところです。

本年の一斉改選に向け、地域と民生委員・児童委員との調整が大きな課題となっており、委員の意識醸成を図っていききたいと思います。



被災当時の市役所前



現在の市役所前



宮古市民生委員児童委員会会長・副会長等交流会



視察研修受け入れ（静岡県清水市の方々）